

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373200298		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホームびっちゅう		
所在地	岡山県高梁市備中町平川6385-10		
自己評価作成日	令和2年9月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=3373200298-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和2年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで季節感も十分感じられる備中町平川に当事業所は建っている 職員も地元の人が多く入所者とも地域の話題が出て入所者にとって住み慣れた地域で介護が行われている時にはテラスでティータイムを楽しんでいる 小規模施設ならではのアットホームで家庭的な雰囲気作りをしている 季節の行事も取り入れ地域住民に見守られ楽しくのんびりとした生活が出来ている 利用者 職員共に落ち着ける場所となるよう工夫しながら日々頑張っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を中心に公営住宅が建ち並び、事業所と周辺の住宅が一体となりコミュニティを作っている。周辺には、季節を感じることもできる自然があふれている。事業所の隣にある地域の公会堂は、渡り廊下でつながっている。気分転換を兼ねてその公会堂にある和室を使用し、お茶を飲むこともある。テラスで外気浴をしていると、住民から声をかけられることもあり、地域と密接に交流していることが感じられる。職員は、利用者が精神的に落ち着いた暮らしが出来るよう、これまでの知識や経験だけでなく新しい情報を習得し支援している。レクリエーションなど職員の特技を活かせる場があり、利用者のケアに反映することが出来ている。アットホームな、優しい雰囲気のある事業所だった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが出来るよう努力している	事務所や目につくところに理念を掲示し、折に触れ振り返る様にしている。普段のケアの中で、理念に基づいた言葉を聞くこともあり、職員の中に浸透していると感じられる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事やイベント等参加している 地域の店で食品 燃料等購入している	コロナ禍により今年度は中止となったが、地区の運動会や文化祭、渡り拍子という踊りの見学に参加し、地域の人達と交流していた。外気浴をしていると住民に声をかけられることもあり、地域の一員として生活している。	コロナ禍により、例年通りとはいかないことも多いが、今できる形の交流で、これまでの地域の人達との関係を継続に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで支援の様子などを伝えている 会議に入所者も参加し状況を見てもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況などを報告したり話し合う中でサービスの向上に努めている	市の職員、地域の代表者、利用者が参加し開催していた。運営推進会議では事業所の状況を伝えたり、参加者から利用者の様子について尋ねられたりしていた。現在は、郵送で事業所の状況を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政の担当者に毎回参加 頂き協力関係を築いている	感染症対策についての相談をしたり、市が実施している研修の案内をもらったりしている。日頃から連絡をとり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関してはほぼ理解しているが業務上やむおえない場合は玄関の施錠はしている家族には理解を求めている 年2回の研修を行っている	研修用の動画や資料を活用し、身体拘束についての研修を年2回実施している。また、不適切ケアや言葉がけについても職員間で話す場を持ち共通認識することで、気になるときは注意し合う。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年二回勉強の機会を設けている 小さな不適切ケアに関しても注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け学んだり話し合ったりしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	細かな疑問点や気になることなど尋ね話し合い理解してもらえるように努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に本人の状況は話をさせてもらっている 遠方や来れない方には電話にて機会を設けている	現在はガラス越しでの面会や電話での連絡などで、利用者の様子を知ってもらっている。家族から利用者ができることはやらせて欲しいとの要望があり、草取りをしたいという利用者と一緒に敷地内の畑の草取りした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者の意見交換は日頃より行っている月に一度ミーティングを行い意見交換をしている	月一回のミーティング時や日ごろから話し合いの場を持っている。職員からは、利用者の状態に合わせた席や居室の配置についての提案もあり、話し合いながらケアに反映させるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	徐々にではあるが環境 条件が整備されているように感じる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修やミーティングが義務のように推奨されており年間研修計画を立て研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGH会議では情報交換や相談が出来る 2月に一度定期的に本部の統括者を交えた会議を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は特に本人と寄り添い声掛け傾聴し不安を取り除くよう努める事で信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け出来る事は実践している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野で対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話に耳を傾けるようにしている 思いに沿えるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を理解してもらえよう話をして いる 家族にも協力を仰ぎ全員で支えて行 けるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方は時間のある時に面会に来られて いる地域の方には面会をお願いをする事も ある	自宅への外出・外泊や墓参りなどを家族の協 力のもと行っていた。また、地域の店への買 い物や顔なじみの人が訪ねてくるなど、馴染 みの人や場との関係が途切れないよう支援 していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者の性格や相性なども把握に努め臨 機応変に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る事は支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見や希望があれば聞いている 情報の共有や職員会議等で対応を検討している	利用者の反応や会話中の言葉から思いをくみ取る様に心がけている。化粧をする習慣がある人には、継続して行えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース情報以外でも職員同士の情報交換など個別ケアに繋がるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握はしている 個々にあった方法で支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要な情報は共有し意見交換している	半年毎または利用者の状態に応じ、モニタリングを行っている。家族からは歩行訓練や出来ることは自分でして欲しいなどの要望があり、プランに取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務職員会議などで情報を共有し実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟性を持って対応するよう心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なるべく把握するように努め実践につながるように努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診に来てもらっている 緊急時には主治医や家族に連絡し対応している	家族の協力のもと、以前からのかかりつけ医への受診を支援している。月2回の往診も受けている。また、管理者が処方薬について勉強し、医療機関との連携を担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護に来てもらっている 個別相談やアドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のDr CW Ns 等と情報交換を行い関係構築に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明している 地域の基幹病院や主治医と連携を図るよう努めている	重度化した際の対応について、事業所で出来る事とそうでないことについて、入所時に説明している。入所後3か月程度を目安に、特別養護老人ホームへの申し込み申請を提案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当AEDの使用方法等の指導をもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を開いている 地域の消防団の情報も収集し連携がとれるように努めている	年2回、日中と夜間の想定で避難訓練を実施している。火災時には、消防団に一斉メールで連絡できるようになっている。西日本豪雨の際には、近隣の特別養護老人ホームの利用者が避難してくることがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け対応に注意し努力している	一人ひとりのプライバシーを守るケアを理念に掲げ、居室に入る際には必ずノックをしたり、トイレのドアは閉めたりするなど日ごろから注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴しなるべく自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごせるよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を感じられるものの提供や個々の力量により共同作業をしている	献立は職員が作り、季節や地域の食材を使った料理を提供している。行事の際には弁当を頼むこともある。皮むきや食器洗いなど、利用者の出来ることは一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分など個別の状態に合わせた支援となるように心がけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた方法で毎食後支援している 義歯洗浄も定期的に行っている 必要に応じ歯科受診も援助している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け誘導にて支援している 残存能力を生かし出来る事は自分でしてもらうようにしている	排泄チェック表を活用し、トイレ誘導を行っている。着脱や立位など、出来る人には見守りで行い、排泄の自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動や水分補給 食事に配慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて支援できるようにしている	あらかじめ入浴日を決めているが、体調や気分に合わせて入浴を支援している。入浴時是一对一で関わるため、ゆっくりと話を聞ける大事な時間となっている。また入浴できない時には、足浴をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた室内温度や寝具などで対応している 状況に応じて休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を身近におき確認をとっている 誤薬が無いよう複数の職員で確認し合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者全員で楽しめるようなレクリエーションを心掛けている 気分転換にもなる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に応じ季節を感じてもらえるよう散歩やドライブをしている 天気の良い日などテラスで過ごす事もある	季節の外出や、受診後の食事などを行っていたが、コロナ禍により今年度は実施していない。以前からの草取りや散歩、テラスでの外気浴は継続し、日常的に外気に触れる機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持支援は行っていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により手紙の支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花飾りつけなど心地よく過ごせるよう工夫している	季節の飾りや利用者で作成したちぎり絵や塗り絵が飾ってある。清潔な空間になるよう日ごろから心がけ、整理整頓を行っている。加湿器の設置や換気などの感染症対策も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラス ホールで気ままに過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや仏壇、好みの雑誌等持ち込まれ自由に居心地よく過ごされている	テレビや家族の写真、位牌、趣味の道具などを持ち込み、思い思いに心地よく過ごす工夫をしている。携帯電話や日記帳を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要時には居室やトイレに目印等設置し安全に配慮した工夫をしている		